

第3回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」記録

日 時：平成 29 年 7 月 24 日（火）13：30～15：30

場 所：上川合同庁舎 1 階 103 号会議室

出席者：上川管内市町村教育長（旭川市を除く）

事務局：東神楽町教育委員会

1 議題

各種目報告と採択

（1）特別支援

（2）道徳

2 協議会記録

事務局 只今から、第3回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」を開催します。開催に当たり、協議会会長よりご挨拶申し上げます。

議 長 皆さん大変ご苦勞様です。いよいよ小学校道徳の採択ということになります。初めての採択ということで、皆さん様々な部分でご検討されてきたかと思いますが、それらのご意見を踏まえ、現場に喜んでいただける採択になればと思いますのでご協力願います。

事務局 この後の議事につきましては、会長に進行をお願いします。

議 長 初めに経過報告について、事務局からお願いします。

事務局 これまでの経過を報告します。6月6日に開催した、第2回「第6地区教科用図書採択教育委員会協議会」において、第6地区教科用図書調査委員を確認し、7月3日に8名の調査委員の出席のもと、第1回「第6地区教科用図書調査委員会」を東神楽町役場で開催し、調査研究の要領、観点、報告書の作成等について確認を行いました。

調査委員の方々には、その日から自宅において調査研究をしていただき、7月18日と19日には、第2回「第6地区教科用図書調査委員会」を東神楽町役場で開催し、小委員会ごとに報告書を作成していただきました。この報告書については、7月19日に皆さんのお手元に送付させていただいております。

また、各市町村教育委員会において実施していただいた平成29年度における教科書展示会では、4933人の閲覧者と25枚のアンケート用紙の提出があり、調査の際の参考としたところです。

本日は、この後、平成30年度から使用する小学校用「特別の教科 道徳」の教科用図書を採択していただき、特別支援については、新規図書9冊に

について研究調査の結果の報告を聞いて後、採択していただきます。経過報告につきましては以上でございます。

議 長 今、事務局からこれまでの経過について説明がありました。これについては、ご了解いただければと思います。

それでは、平成 30 年度から使用する小学校教科用図書の採択に入ります。

まず、議事を進めるに当たって参考とする資料について確認します。一つ目は、北海道教育委員会から送付されている「平成 30 年度から使用する小学校用の教科用図書採択参考資料」。二つ目は、第 6 地区教科用図書調査委員会作成による「平成 30 年度使用小学校教科用図書調査に関する報告書」。三つ目は、各者の「教科用図書の趣意書」及び「教科用図書の見本」です。

すでに、各委員の皆さん方はそれぞれに目を通していただいているものと考えておりますので、よろしくお願いします。

それでは、はじめに特別支援について調査研究報告書に基づき調査結果を小委員長から報告していただきます。

特支小委員長 <特別支援小委員長入室>調査結果の報告

議 長 小委員長に質問はありませんか。

委 員 どの教科書も子ども達の実態に応じた、あるいは障害の程度に応じて作られていると思うのですが、例えば、国語、偕成社と日本教育研究で発達段階が B と C に分かれています、具体的に教科書の内容になった時に B と C ではどのような違いがありますか。

特支小委員長 発達段階の A ～ C というのは、A が障害の程度が重くて、A ・ B ・ C といくごとに障害の程度は段階的に軽いという区分けになっています。ですから、A の場合だとイラストが大きいとか、1 枚のページに入る情報量が少なめになるという感じです。障害が重くなると、情報が多すぎると逆に入ってこないという特徴があります。そういう意味では C になる段階で少しずつ情報が多くなる、字が少しずつ小さくなっていくという感じです。ですから、字の大きさや絵の大きさ、イラストの量、そういうところを調査の中に入れていきます。

委 員 障害は肢体不自由のお子さんであったり、重複している場合もあるでしょうが、知的障害、聴覚障害であったり、視覚であったりそういうのを一括して、例えば偕成社の B の図書などで対応できるのですか。

特支小委員長 調査委員会の中でもその話題になりました。実際に、どの子にもある程度対応できるというように書かれていますが、問題は、実際の現場でどう対応し、それを子どもにどう伝えていくかということになります。

例えば、肢体不自由で自分で本を持てない子がいれば先生が持つとか、難しい言葉を先生が咀嚼しながら、もう少しやさしい簡易的な言葉で子どもに伝えてあげるとか。そのようなことが必要になります。

<特別支援小委員長 退室>

議 長 それでは教科書の方、皆さん方から特別支援について、何かご意見等ございますか。

委 員 具体的な教科書を見てない中で、採択するのはなかなか難しいのかなと。これまでもこのようにやってこられたので、どうこういうわけではありませんが、実際に目に触れる機会があったらよいかと。

小委員長さんの話で障害の程度、種類、これはこうですよと、調査結果をきちんと聞いたわけですが、実際に図書を見ていない者が本当によいのかなと思ってしまいますので、次回そういう機会があったら見れるようにしていただきたいと思います。

議 長 今後、可能であればそのような対応が必要かと。その他、今の報告に対してのご意見等なければ、9冊について一括採択となりますがよろしいですか。

多 数 異議なし

議 長 それでは特別支援については全て採択ということで決定とします。

次に、小学校の道徳の協議に入りますが、本日の協議で全員一致がみられないといった場合には、8月8日に予備日を設置しておりますので、そこでの再協議になることを、あらかじめご理解いただきたいと思います。

協議の観点については、「道徳科の4つの内容項目をバランスよく取り入れた教材」の充実を図っているか、「自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を取り入れた教材」の充実を図っているか、「問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れた教材」の充実を図っているか、「情報モラルやいじめの問題への対応に関する教材」の充実を図っているか、「北海道に関わる地域素材」の充実を図っているか、などの観点を話をしていただければと思いますが、その他にもあれば出していただきたいと思います。

道徳小委員長 <道徳小委員長入室>調査結果の報告

議 長 小委員長に質問はありませんか。

委 員 これまでの道徳の時間は、自分の学級の子どもの実態に即して、例えば、

繰り返し指導しなければならない価値項目があったと思います。文教出版や学研など複数の副読本から子どもに合ったものを選んでいたというのがこれまでの道徳の時間だったと思うのですが、来年度からそういうことができるのか、これまでの道徳とどういうところが違うのかを教えていただきたい。

道徳小委員長 教科書に載っている教材の数やページ数については議論しておりません。ただ言えることは、教科になるということでどの発行者も 35 時間の授業ができるような教材が確保されているということは間違いのないことです。それ以上ある教材をどのように扱っていくのかということは、各学校で議論していかなければならないのではないのでしょうか。

委 員 教科書の扱いを考えた場合、ただ一教材一時間扱いかといったらそうではなくて、教科書に載っているところをきちんと指導する、複数の教材を一時間で指導することも可能だと思います。教材数は量が多いと読ませて一時間終わりというような、これまでの道徳の時間の反省点も出ていますので、そういうところからすると、教材数をある程度絞り込んだ方が私はふさわしいのかなと思っています。

先生方は来年から英語もあるし、道徳もきちんと理解して仕事をしなければならないとなると大変なのかなと。もう一つ、「考え、議論する」道徳とキャッチフレーズが出ていましたけれども、言語事項を大事にするということが出てきていますが、そのあたり、8 者の中で特徴的なことありましたか。

道徳小委員長 言語活動のことですね。児童が考えを深め、判断し、表現する力等を育むことができるよう自分の考えをもとに話し合ったり、書いたりする等の言語活動については、どの会社もきちんと取り入れていると調査しました。採択参考資料の 39 ページからの部分に言語事項がどのように取り上げられていたかというか、教材の一覧の形で載っておりますので、そちらもご参照いただければと思いますが、どの発行者も意識して教科書が作られていると調査しました。

委 員 関連したことですが、文科省では、教科書の内容以外に学級の実態に応じてとありましたが、地域素材の資料の活用、その辺を推奨していますよね。どんどん押し詰めてほしいということで。本市でも平成 26 年度に教職員の力を合わせて名寄岩の相撲人生を取り上げて教材化し、今小学校 6 年生で必ず名寄岩をやって中学生へ、というような取組を行っています。その地域素材の教材化について各者配慮している会社はあるのでしょうか。

道徳小委員長 北海道の地域素材のことかと思うのですが、児童にとって身近なものを感じられ、教材に親しみながらねらいとする道徳価値について考えを深め

ることができるよう、北海道に関わる地域素材の充実を図っているというように調査しましたが、詳しくは採択参考資料の 167 ページに、北海道の地域素材をどれだけの発行者が取り上げられているか一覧になっております。

委員 全体の教材数でゆとりをもたせている発行者は、35 時間分の教材となっていますが、35 時間分より多い教材数であるとか、そのような配慮をして教材の排列を考えたりなどの傾向が見られますか。

道徳小委員長 そのあたりの関連は、調査が十分にできておりませんでしたのでお答えできません。

委員 8 者の説明があったが、最初の取扱内容の所が、「生命の尊厳」から「情報」まで 4 つあるのですが、そのうち自然については 1 者、伝統と文化については 3 者、主に生命の尊厳について説明がありましたが、それは意味があるのですか。

道徳小委員長 4 つの観点の中で、時間の都合もあり、特色的なものを 1 つ程度、4 つの中からピックアップしました。

委員 「生命の尊厳」については、4 者が特色的だったということですね。

道徳小委員長 その発行者の中ではということです。

委員 教科ですから目標があって、指導すべき内容があって評価の話題になっていると思うが、評価の取扱いについて各者の特徴的な取組や工夫があれば教えていただきたい。

道徳小委員長 例えば、4 年生を例に各者少しずつ紹介させていただきます。教科書レベルでいうと振り返りというのが、どの会社も設定されていますが、東京書籍については 155 ページに学習の振り返りというページがあり、年間 3 回程度大きく振り返るページが設定されており、評価に直結するものだと思います。学校図書については、156 ページに道徳の学習を振り返ろうというコーナーがあり、別冊についても評価に使えるものかと思います。教育出版については、必ず教材の後に学習のてびきというコーナーがあり、その中に発問という形でそこで評価が可能ではないかと。144 ページには一年間の道徳の学習を振り返ろうというページがありますので、そのあたり評価に十分活用できるかと思います。光村図書は、30 ページに学びの記録というのがありますが、年間 4 回設定されておりますので 1 学期、2 学期、3 学期、年度末などの時期的な評価が可能かと思います。日文は、別冊があり、書き込むことで評価ができるかと思います。光文については巻末に学びの足あとというページがあり、ここで振り返ることができると思います。学研については 152 ページに心の宝物というのがあり、ここに設定されております。あかつきは別冊があり、別冊で評価できます。各者ともに

振り返りのページなどを設定することによって評価できるようになっています。

委員 内容の構成・排列、分量の欄ですけれども、その中でA B C D Eとなっていますが、解釈としては、A B C Dまでの部分で複数のものが入っているが、Eということでしょうか。

道徳小委員長 おっしゃる通りだと思います。例えばAとBが組み合わさっている意味だと我々も解釈しました。

<道徳小委員長 退室>

議長 それでは、道徳についての協議を始めます。御意見をお願いします。

委員 私は総合的に見て、光村が一番優れていると思います。その理由は、3点あります。

1点目は、子ども達の授業に取り組むイメージがもちやすいことです。「考えよう」において設問があり、最後は「つなげよう」において、学んだことを次につなげていくということが分かりやすいと思います。やりやすいのかなと。

2点目は、子ども達の成長が見える工夫がされているからです。「学びの記録」で考えを書き留めることができるようになっており、学年に応じて書く欄も増やされています。1、2年生は思ったところに色を塗るという工夫もされている。また、まとめの振り返り、学びの記録というものが充実しています。

3点目は、光村のイラストが子ども達を描いていてやさしい表情を描いているということです。道徳性を養うにはよいと思います。いただいた資料を見ると、学習指導書サポートが光村のホームページを検索していただくとウェブサイトに載せられています。自由に使ってよいということだと思いますし、先生方が、初めて取り組む道徳に、全く白紙の状態で学ぶのではなく、ある程度雛形的なものがあり誰でも使ってよいというのはすばらしいことだと思いました。そういうことで私は、総合的に光村が優れていると思います。

議長 他にありますか。

委員 教科書は1ページから最後まで指導するのが、教科書の役割だと思います。教材の数だとか、ページ数がある程度計算されている教科書でなければ先生方の指導は大変難しいのではないかと思います。教材数で一番多いのは光文で53あります。その次は光村で52です。その次が日文で47です。ページ数になりますと、一番多いページのあかつきで228ページです。次

に日文で 224 ページ。そして光村で 208 ページになります。分量としては凄く多いと感じます。

問題解決的な学習や体験活動が入っている教科書があり、それがやはり望まれているのだろうなと思います。そういう学習は、様式の 4 に出ていますが、光文が 178 ページ、あかつきが 80 ページ、教出が 78 ページあります。

また、子ども達の課題となっているいじめとか情報に関わる内容が一番多いのが日文で 98 ページ、学校図書で 81 ページとなっています。

道教委で今言っているのは、地域における自作資料を積極的に推奨していますが、先ほど評価の話もしましたが、とりわけ分冊にされている教科書があり、子ども達が見るときにこのようなファイルの中に道徳ノートを書き入れるようなものがあって、きちんとする工夫が必要だと思います。

あかつきなど道徳ノートを先生が集めて先生が保管し、そして授業で渡して帰りまた集めるということで、保管しておけばなくなる心配もないと思います。

あとは学習の手引きです。後ろの方に例が出ていますが、そのようなことを考えた時に日文、教育出版、あかつきが妥当ではないかという結論に至りました。

議長
委員

他にありませんか。

同じ教材をどのような視点で扱っているか考えました。それぞれ文章が少し違いますが、「教材の手引き」だとか、「ふりかえり」だとか「考えよう」などがあります。各者の教材の終末で、どのような視点で子ども達に考えさせているのかを見ました。道徳においては、「絶対にいけないことは絶対いけない」ということは分かるのですが、「色々な考えがある」というのが道徳であると思っています。

手引きについては全学年、教育出版は発問が 5 つとか 4 つあり多いと思います。それはそれでよいのですが、気になったのが手引きのところに吹き出しで、「これはいけないよね」など子どもたちが会話しているのが結構あるのです。そうすると、考える途中で「そうなんだ」と吹き出しに答えが出てしまっていて、その辺が少し気になりました。全学年を通してです。

その点、学研や東書、光村は、例えば 4 年生ですと「雨のバス停」の部分を見ていただきたいのですが、「どう思ったのだろう」「どうなのでしょう」と問いかけが 3 問くらいあり、自分の思いを言えればいいのだろうと思います。吹き出しでこれはいけないだとか、他に色々あるのですが、様々な考え方があるという部分を育てるという面では、光村さんの教材の「考えよう」という部分でよいのではと思います。以上です。

議 長
委 員

他にありませんか。

私が重視したいのは1つの目的だけではなくて、複合的なものもあって
もいいのかなという中で言えば、教材数が多い、少ないというよりも多様
な意見を交わすことが必要なのかなというのが一点です。

もう1点は、このようなことは学校だけの観点ではなくて、家庭の中で
も話し合いができるようなことも必要なかと思います。そのような中では
日文の別冊は配慮されていると思います。

もう1つは命の大切さが課題であると考えておりまして、そういった意
味で系統的に対応しているのは東書、日文だと思います。総合的な評価と
しては日文がいいと考えています。以上です。

委 員

私も8冊全部読みましたが、1回読んでよかったなと思ったのは、教出
と光村と日文、あかつきです。次に、別冊ノートがあるものとないものと
2つに区切って考えて、別冊があるのが日文、学校図書、あかつきで、別
冊がないのが教出、学研、光文、光村でした。そのグループごとに、どれ
がよいのかと見てみましたが、道德の教材には目標が必要です。それが明
確にされているのかという視点で見ました。そういう視点で見ると、教材
の1番最初に価値項目、価値内容が3つの構成になっていたのがありまし
た。価値内容と子どもたちへ問いかけのような文章があるもの。それと3
つ目に教材を読む視点というのがあるのですが、3種類あるのが日文です。
全くないのが学研です。目標だけというのが学校図書、あかつきです。価
値内容と子どもたちへの問いかけがあるのが教出、光文、光村、東書です。
このような構成になっているという視点で、教材をきちんと捉えることが
必要なのではないのかと思います。これは導入の段階です。

展開の中では、質問項目があって主発問が1つしかない教科書がありま
す。私はずっと道德を教えていた経験から、若い先生にとって発問1つと
いうのは厳しいです。何点かあって、そこから教材を読み込んで選ぶのが
大切です。そういう捉え方が道德にはあります。そうすると年配の先生か
ら若い先生まで、流動的にきちんと対応できるということになります。こ
こをきちんと押さえているのは教出です。

導入の段階では日文が1番です。展開の中では、若い先生から年配の先
生までいろんな使い方ができるという意味で教出がよいと思います。評価
の話が出ていましたのでこれはちょっとおいておきまして、教科書の内容
を見たら分かると思うのですが、全者共通しているのが「橋の上のおおか
み」という教材です。これを全部並べてそこで解釈してみました。中身は
大よそ同じですが、言葉使いなど若干ニュアンスは変わっています。

1本橋があり、うさぎが渡っていくと向こうからおおかみがやってきて、

おおかみが怖い顔で怒鳴り、うさぎがびっくりして戻り、おおかみが「えへん、へん」と渡るのですが、この「えへん、へん」を「えへん、えへん」と表す教科書があります。熊との出来事があってオオカミはうさぎへの態度が変わります。次の日、同じような状況でおおかみはうさぎを抱き上げ、後ろにそっと降ろしてやりました。ここでまた、「えへん、えへん」と言います。いい気持ちでした。「えへん、えへん」が最初の「えへん、えへん」と後半の「えへん、えへん」がありますが、これは学研もそうなのですが、後半の「えへん、えへん」がない教科書もあります。それと、「えへん、えへん」の使い方の違い。それと後ろに描写がない。学研はあるのです。今の状況で見ていくと、挿絵に後ろ姿を見る場面がない教科書があります。想像性の関係が関わってくると思いますが、後ろ姿の場面がないのは、光村、東書。そして、「えへん、えへん」のところが最初おおかみが言った「えへん、えへん」と、後半に言った「えへん、えへん」の意味合いが違いますが、違いを考えさせるのが非常に道徳では大事なところだと思います。子どもたちはそこを読み取って「先生、こことここは違うよね」という言葉を引き出すような教材解釈をしていかなければならないのです。「えへん、えへん」を上手く子どもたちから引き出そうとしているのが教出、あかつきです。総合的に考えて、ノートを使ってない中では、教出が一番いいと思います。ノートを使っている中では日文が一番いいです。私は教出と日文で迷っています。

議長
委員

他にありませんか。

教材の手引きの部分を見てください。一年生でいえば全部扱っているのは「かぼちゃのつる」です。手引きで教育出版は分かりやすく工夫していますが、吹き出しのところが答えだと思うのですが、このような記述が多すぎるのが気になるところです。子どもが様々考えてどうだったか、答えを与えてしまうと、言われなければできないような子どもになってしまうのではと心配しています。以上です。

委員

先ほど光村の話をしていたので私も気になっていたのですが、1か所、2年生の「かさこじぞう」が、とても字が小さくなっています。そして、子どもたちの問いかけの所が、「先生に話してもらいましょう」となっています。最初はいいなと思ってずっと見ていたのですが、「先生に読んでもらいましょう」となっているのはどうかと思います。

委員

よかったなと思ったのは、光村と東書です。学年ごとの教材の位置付け、言語活動、問題解決、いわゆる主体的・対話的で深い学びの扱い。テーマですが、特に光村の命の部分が欠かせないテーマだと思いました。指導書ですが、半分くらいの会社が指導書やワークシートを付けており、付けて

いない会社もありますが。全部ホームページから取れますね。全体のバランスといいますか、トータルで言うと光村図書と東京書籍がいいなと感じました。以上です。

議 長
委 員

はい。ありがとうございます。他にありませんか。

光村と光文と日文がいいと思います。光村は、地球課題や生命尊重と連携が図れておりいいと思います。低学年には文字が小さいかと思います。全体的には、連携が図れるのではないかと思います。光文はキャラクターなど関心を引くような教材が多くていいと思います。いじめについても載っておりいいと思います。日文については、道徳ノートも有効だと思っています。子どもの病気の教材、この辺が多くて少し配慮が欠けているものもあるかと思いますが、この3つが私はいいいと思います。以上です。

議 長

一通り皆さんの意見を聞きますと、難しさがあるなというのが正直なところです。今のご意見をお聞きすると圧倒的に多いのが光村、日文、次いで教出というところで、学校図書はなかったと思います。今皆さんの意見を聞いていく中で、今日は2者に絞るということになっていますので、ぜひとも、というところは言っていて結構です。

委 員

先ほど3者ほど申し上げましたが、道徳の始まりはすぐ教科書でやれというわけではなく、子どもたちの実態を含め自分たちの生活の中で自分たちが問題としていることは何か、という生活の場面から入っていき、そして今日は教科書を使って、心の勉強をしていこうというようになると思っています。そういう意味では分量は4、5ページが9ページになったり、文字が2段になって小さくなっている教科書もありますので、やはり、ある程度定型化されているものがないのではないかと思います。

私は、日文と教出を押したいと思います。子どもたちの生活の中で何かあったときに、1ページから扱うのではなくて10ページからやることもあると思います。

委 員

私は最初から、教出と日文を言っていましたが、国語と違います。国語の教科書と違うのは、子どもが1回読んで価値に気づき、何の勉強をするのか分からないといけません。先ほどの「橋の上のおおかみ」でも、教材が教科書によって違いますが、心の描写がきちんとしていなければいけないと思います。両方備えているのが一番大事だと思います。

委 員

先生方が教える時、どのように教えるか。算数であれば「今日はこのようなことをやります」と教えます。それと一緒になのかと思います。「今日はこの物語で勉強しましょう」と。そういう時に教科書を見ると、教育出版は資料名が書いてありますが、その前段には何も書かれていません。後段には書いてあります。前段に、資料名の他に主題名が他者には全部付いて

います。教育出版だけは、資料名以外は何も書いていないのです。資料の最後に示している発問が多いのが教育出版です。もし仮に、家で子どもが道徳の教科書を親に見せた時に、他者は発問が2問、3問とすごく少ないのです。能力のある先生はそういう発問でいいのかと勝手に想像してしまいます。親と一緒に家庭でも対応できるのは、発問の多い教育出版なのかと思ひまして、私は教育出版がよいと思います。

議 長 そろそろ今日のまとめに入らなければならないのですが、協議をまとめていくと、教出・光村・日文の3つの中から選ばなければならないと感じているところですが、この3者を中心に協議を進めるということによろしいですか。

今日のまとめの中で、約束としては2者に絞るということになっております。しまし、場合によっては3者を次回にもち越すということもよいかと思いますが、再度皆さんのご意見をいただきます。

委 員 現状では3から2に絞る作業はかなり大変だと思います。3者をそのまま次回にもちこして次回協議ということがいいと思います。

議 長 皆さんご理解いただけますでしょうか。それでは今日の段階では、教育出版・光村図書・日本文教出版の3者に絞らせていただき、次回8月8日に、再度協議をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

多 数 異議なし

議 長 それでは、次回皆さんからもう一度ご意見をいただくということで、本日の協議会は終了とさせていただきます。